

学校名：神奈川県立伊志田高等学校

担当：英語

氏名：隅田 直子

### 1. 今回の研修における目的やねらい

授業を通して生徒たちは開発途上国の抱えている児童労働や地雷問題、さらには女性の地位向上問題などを学ぶことができます。また報道を通して、教育が十分におこなえない現状を知ることも可能です。

しかし地雷が国の経済にどのような影響を与え続けているのかとか、学校が足りない現状に対して建物を増やせば問題は解決されるのかとか等詳細にわたってはなかなか学ぶことはできていません。

私は自分がこの研修に参加することで、自分の目や耳で現地の情報を収集し、過去の紛争のために現在の生活に制限を余儀なくされている国をはじめとした開発途上国の現状や児童・生徒の実態を体験し、それを自分の生徒たちに自分の言葉で伝えたいと思いました。

### 2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

小学校や母親教室、子供の健康増進プロジェクト活動現場、アンコールワットをはじめとした遺跡群、スパエク・トーイやアプサラ・ダンスなどの伝統文化、市内のマーケットなど様々な分野の現場を視察・見学・訪問させていただいたことでカンボジアの現状や課題、また日本人の NGO スタッフの活躍の様子、彼らが直面している問題を通して国の政策の状況などを知ることができました。

途上国が抱えている解決しなければならない問題については、様々なメディアを通して知っていたことではありますが、現場を見ることで改めてその問題が引き起こす次の課題も知ることができたのは非常に有意義だったと思います。

### 3. カンボジア国から学んだこと

電気の普及率は30%に満たないし、小学生の進学率は小学校5年生で70%を切ってしまうなど、まだまだ発展途上の部分が多く、また経済的にも他国の支援に依存することが大半で自国の生産性ということに関しては課題が多い国であるという話を聞きました。しかし、抱えている課題が多く、発展途上であるということはたくさんの可能性を秘めているということの裏返しであるということに気がつき、豊かな日本と比較したときに、むしろ将来性という点ではカンボジアに軍配があがるのではないかと羨ましくなりました。

また街の様子や暮らしぶりを目にして新しい発見をいくつもすることができたことで、「途上国とは」という先入観を持って参加していた自分に気がつくことができました。

日本にいと決して気がつかないような様々なことを、何度となく考える機会を多く与えてもらいました。

### 4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

途上国が抱えている課題を学ぶチャンスは多々あります。ただ、そのことで逆に途上国に対する固定観念を抱いてしまうことも事実だと思います。

今回自分自身がこの先入観に気がついたことで、生徒たちにもまずそのことを伝えていけたらと考えています。

授業の中で途上国の問題をトピックとして扱うような場合でも、まずはメインで扱っている課題について正しい知識を身につけさせ、その次にその課題の陰に隠れている別の問題やその課題の先にある可能性についても考えるチャンスを与えられたらと考えています。

さらに、自分たちが途上国の開発に関わるとしたらどんな方法があるのかという点についても、様々な日本人の活動を見学したことで、生徒たちに伝えていけるのではと思っています。

## 5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

日頃話をする機会が全くない小学校や中学校の先生方と毎日を過ごすことができ、刺激をいただきたくさんのお話を学ばせていただきました。どうしても“井の中の蛙”になってしまいがちですが、業種の違う先生方の様子を聞いて、自分はまだまだだと自らを振り返ることができました。

お忙しい先生方ですが、お話を重ねることで学べることはたくさんありました。事前の国内研修のときに参加者だけで打ち合わせをする時間をできるだけ多く設定すると現地に行ってからスムーズに事が運ぶだけでなく、結束がますます強くなると思います。

## 6. その他、研修全般を通じての感想・意見など

この報告書を書いている最中にアンパンマンの歌が耳に入ってきました。

「そうだ うれしいんだ 生きる 喜び たとえ 胸の傷がいたんでも 何のために 生まれて 何をして 生きるのか 答えられない なんて そんなのは 嫌だ!」

この歌詞を聞いてまさに未来に向かって前に進んでいるカンボジアの姿が重なりました。

現在の日本では多くの生徒たちは、豊かな物質社会の中でほとんど不自由を感じることなく暮らしています。その反面、自分の将来に対して大きな夢を持って毎日を過ごしている生徒はさほど多くはいないでしょう。

しかし今回出会ったカンボジアの子供たちや日本人スタッフはカンボジアの将来を信じて、毎日を過ごしています。そういう気持ちを持った人たちにたくさん出会えたことが今回の研修で得た一番の成果だったかもしれません。

## 7. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

毎年参加者の先生方がおっしゃっていますが、健康管理がまず一番だと思います。10日間はあっという間ですが、それでも普段の生活とは違うリズムで毎日を過ごさなければならないので、気がつかないうちに疲労が蓄積されてきたりします。せっかく準備してきた研修が体調不良のために不完全なものに終わってしまうのは本人が一番残念に感じると思います。体調が良ければ、どんな時もポジティブになれると思うので、ぜひ健康に留意してください。

それから、個人的に現地で役に立ったものは「虫除け」「懐中電灯」「S字フック（洗濯物を干したり、手荷物をひっかけておくのに使いました）」「ウェットティッシュ」「ジップロックのバック」「デジカメの予備のバッテリー」でした。

研修場所によって必要なものは変わってくると思いますので、研修先の状況をよく調べてみるといいと思います。

## 8. 各訪問先等の所感

| 日時       | テーマ                    | 所感  |
|----------|------------------------|---|
| 7月26日(火) | 日本からカンボジアまでの移動中および現地到着 | ホーチミンの空港が立派なことに驚きました。プノンペンの空港もきれいではありましたが、規模という点においてはホーチミンの方が圧倒的に上回っていました。    |
| 7月27日(水) | JICA カンボジア事務所表敬        | 統計を通してカンボジアの課題の多さを改めて学ぶと同時に、事務所の中や窓の外に広がるプノンペンの街並みと統計結果がずいぶんとかけ離れている印象を持ちました。 |
| 7月27日(水) | 市内見学（現地マーケット視察）        | スーパーマーケットや文房具店、本屋の品揃えが日本と何ら変わらないのに驚きました。                                      |

|          |                           |   |
|----------|---------------------------|---|
|          |                           | また、都市開発の進んでいる地区がいくつか見られましたが、カンボジアは労働力しか提供しておらず、開発そのものは他の国主導であるため、資金がそちらに流れてしまうという現状に複雑な心境になりました。  |
| 7月27日(水) | JICA 無償資金援助で建設された施設       | 日本の支援で建設された橋のすぐ横に中国支援の橋を建設している様子を見て、中国マネーの勢いを感じました。   |
| 7月28日(木) | カンボジア日本人材開発センター           | わずか3~4年ほどで流暢な日本語を話す学生が多く、彼らの学習意欲の高さに感心させられました。  |
| 7月29日(金) | 国際保健協力市民の会 (SHARE)        | 乳幼児健診の重要性について、各村の代表者に説明する現場の視察でした。日本であれば学校で学ぶようなことが、教育が定着していないため、ボランティア主導で行わなければならないという現実を見て、教育の重要性を実感できました。                                |
| 7月30日(土) | アンコールワット                  | まだ機械の発達していない12世紀初頭に、人の力だけでこれだけ大きな建造物を創建できたとは、宗教の人々に与える影響力を感じました。時間が経過してしまったことでかなり痛みは激しいものの、特に壁面のデバターや回廊の浮き彫りの美しさは当時の人々の信仰に対する強い思いが伺えた気がします。 |
| 7月30日(土) | クメール伝統織物研究所 (IKTT)        | カンボジアシルクの存続のために、桑や染料を取るための樹木の栽培からおこなっているという森本氏のお話を聞きました。ただ、氏の口調は非常に淡々とした感じで重責の念に駆られていない様子に驚きました。自分のやりたいことをやっているだけというその姿勢が継続の秘訣かなとも思いました。    |
| 7月31日(日) | クメール伝統織物研究所 (IKTT)        | 朝は鶏の鳴き声が響き渡り、それぞれの家ではカマドに薪をくべて朝食の準備をしている様子が別世界を感じさせました。   |
| 7月31日(日) | タ・プローム                    | 巨大な石の建造物に巨木に成長したスポアンが覆いかぶさっている様子は、所詮人間の作った建造物は自然にはかなわないという当たり前のことを、改めて感じさせてくれました。朽ち果てかけた寺院に巨木が絡みついている姿は一種不気味でもありました。                        |
| 8月1日(月)  | カンボジア地雷対策センター博物館          | 様々な地雷が展示されており、提示されている火薬の量を見て、人間にどんな障害を負わせるか計算して地雷を作っていた事実を認識して、胸が痛みました。また、地雷や不発弾の犠牲者の写真が壁一面に展示されており、この国にとっては特別なことではないんだと改めて考えさせられました。       |
| 8月1日(月)  | 海外ボランティア視察 (伊藤 SV, 徳富 JV) | 学校の対応によって落第者や退学者の数が変わるという伊藤 SV の説明を聞いて、日本とは違った意味での学校間格差を感じました。  |

|         |                          |   |
|---------|--------------------------|---|
| 8月1日(月) | 母親教室<br>(就学前教育)          | 民家の敷地の一部を使った就学前教室を見学しました。母親を対象とした子供たちの歯磨き講習会でしたが、教育に対しての大人の意識が日本と違う現状を目にした気がしました。   |
| 8月1日(月) | 夜間の識字教室                  | 大人を対象とした識字教室という話でしたが、実際は小学生ばかりでした。まだ低学年の児童が多かったと思うのですが、すでに学力差がついてしまっているようで、日本もカンボジアも学力の低い子は集中力も低いんだと妙に納得しました。                       |
| 8月2日(火) | ワット・ポー小学校                | 情操教育が確立していないカンボジアにおいて、立派な合奏を見せてくれました。<br>生徒たちにとっても音楽との出会いは新しい刺激となったと思うし、合奏を身につけることで今までにない一体感を味わえたのだと思います。<br>気持が前向きな生徒たちの行動は印象的でした。 |
| 8月2日(火) | コン・ボーン氏の講演               | 死に直面した実体験を講演してくれただけでなく、カンボジアの将来を思って学校を運営している氏のお話は非常に心に響きました。  |
| 8月3日(水) | 現地マーケット視察<br>(ロシアンマーケット) | 肉や魚、野菜を売っている様子を見て、やっとカンボジアの人々の暮らしぶりを見ることができた気がしました。7月27日に見たマーケットはカンボジアのよそ行きの顔だったんだと、両者を見ることができ勉強になりました。                             |
| 8月3日(水) | トゥールスレン虐殺博物館             | 人間はこれほどまでに残酷になれるのかという思いを改めて感じさせた見学地でした。   |
| 8月3日(水) | JICAカンボジア事務所<br>研修報告会    | わずか1週間ほどの滞在でしたが、初日に訪問したときとはまったく違った気持ちで席についたことが特に印象に残っています。<br>事前にカンボジアのことを勉強してきたつもりでも、実際はこんなに知らないことばかりだったのかという思いを抱いて臨んだ報告会でした。      |
| 8月4日(木) | カンボジアから日本までの移動中および日本到着   | プノンペン - ホーチミン間でオーバーブッキングのため3名が一緒に帰れないアクシデントが起きてしまいました。しかし、お互いを思いやりながらメンバーそれぞれが素早く決断し行動していたのがとても頼もしく感じられ、いい仲間と研修できたとうれしいひと時でした。      |